

手作り体験 遊工房

- 物件名：手作り体験 遊工房
- 住所：入船1-1-5
- 電話：21-3101
- 所有者：札幌の法人
- 運営者：株式会社オルゴール堂
- 主任と人員：武田博幸（取締役営業本部マネージャー）
- 建物履歴
 - 大正10年 上勢友吉商店
 - 昭和55年 1階正面左端の旧出入り口を窓に改修
 - 平成3年 小樽市歴史的建造物指定
 - 平成20年 手作り体験 遊工房開館



■外観

現存する純石造3階建てとしては唯一、瓦葺き屋根にドーム窓が設置され、各階の窓はスマートなキーストーンで飾られ、縦長構造。遊工房再利用時には外観は補修不要。小樽オルゴール堂本館の重厚感を裏切ることなく、同じく重厚感を持つ建物は、小樽オルゴール堂のイメージ向上につながっている。

■内観

- ①エレベーター／団体客誘導や来館者の便益向上のためエレベーターを設置。
- ②階段／あくまでも来館者のために幅の広い階段を設置。
- ③床／再利用時に床材を張り直し。
- ④美装／全階全て徹底した美装。

■内容

そもそも小樽オルゴール堂本館3階に体験コーナーを設けていたが、体験市場開拓と需要喚起を図って近隣物件を探していた。現在の体験市場では学校教育の一環として軌道にのりつつあり、教育旅行にも力を注いでいる。2階は100名収容。

■コンセプト

販売と異なり、わかりやすい説明スキルを重視し、つくる喜びを目的に人事教育を徹底。台湾人の体験客も見込まれることから、台湾人1人を通訳として確保し対応。観光需要はビジターからリピーターに進化していくが、体験というプログラムは主にリピーターに集中する。最近増加しつつある中国人ビジターは販売、既に定着した台湾人はリピーターに進化していることを物語っている。

■客層

日本人の教育旅行市場にも浸透しはじめる一方、台湾リピーターの楽しみメニューとしても確立しつつある。また日本人個人客の市場も定着。



キーストーン



2階体験工房



パーツ選び



1階ショップ・工房



キャラクター選び



森田亜紀子氏